



佐賀小学校

『たくましく心豊かな
児童の育成』をめざして

校長 西岡 公子

◆はじめに

本校は、学級数8、児童数113名、教職員数15名で、教育目標を、「たくましく心豊かな児童の育成」とし、基礎学力を定着させる(知)、一人ひとりを大切にする(徳)、たくましい心と体を育てる(体)取り組みを、保護者や地域の方々の協力のもと日々行っています。

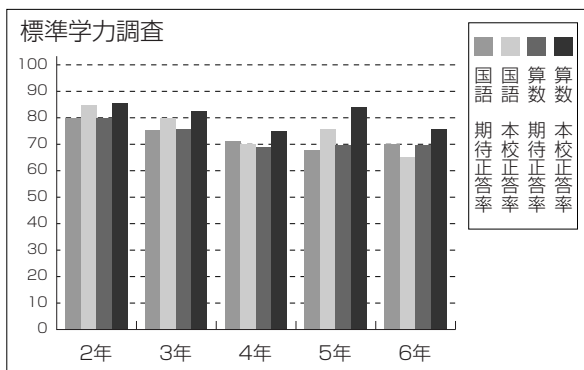


◆佐賀小の教育活動

【学力】

「確かで豊かな『読む力』を育てる」を研究主題、「互いに認め合い、かわり合う授業づくりを通して」をサブテーマとして、教職員が子どもたちの実体を把握しながら研究・実践を行っています。

左記のグラフ「標準学力調査」(2、6年生で実施)で分かるように、本校の児童の学力は、期待正答率を上回り、ある一定学力はついているという結果が出ています。



しかし、観点別の値を見ると、特に文章を読み取る力には、まだまだ課題があり、子

どもたち一人ひとりに確かな学力をつけるための有効な授業「かわり合つてともに伸びる」を充実させるために、人権教育・道徳教育の授業はもとより、国語科の授業研究を全教員が行つて授業力の向上を目指しています。特に、子どもたちが、それぞれの読みを仲間伝へたり、聞き合うことで、自分の読みを確認したり修正したりするようなかわりを意図的に仕組んでいくようにしています。

【仲間づくり】

「互いに認め合いかわり合える仲間づくり」を目指して、

本校は、人権教育を中心にすえた教育を行つてきています。

1年生の目標「クラスや異学年の友だちと仲良くし、いろいろな人とのふれあひを通して、やさしい心を育てる。」から、6年生の目標「自他の生命や人権の大切さを認識し、人権問題を自分と重ねて捉え、解決に向けて行動する態度を育てる。」まで、6年間を通してよりよい仲間づくりから、部落差別をはじめとするあらゆる差別を許さない、しない

子どもを育てる取り組みを行っています。

仲間づくりの観点からは、相手を傷つける言葉、いやな思いをさせる言葉を使わない取り組みとして、2007年7月に児童会が言葉に対する宣言文を作成し、日々学校全体、学級で確認し合いながら子どもたち一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように取り組んでいます。

部落問題学習では、地域の関係者の方や保護者の方に協力をしていただきながら、歴史学習はもとより、子どもたちの生活に生き、活動できることを目指した学習に取り組んでいます。

◆広島で学び、学校で平和展

6年生が修学旅行で広島に行き、学習したことを「平和資料展」として下級生や保護者・地域の人に発信しました。資料展の開会にあたり、子どもたちが考えた「佐賀小平和宣言」が読みあげられました。(以下抜粋)

『戦争は 人の心も命も奪っていく。
戦争はすべての生き物の幸せを奪っていく。
戦争は差別を生み 差別は戦

争を生む。

(中略)

争いをやめ 人間を大切にせよ。

人を信じ 人を大切にせよ。
戦争はいらない。

悲しい争いもいらない。

みんな笑顔 それが平和。』

(2011年佐賀小6年生同) たくさんの人に平和の大切さについて考えてもらうことができたこと、学習したことを平和資料展という形で行動に移せたことがとても良かった取り組みとなりました。



◆おわりに

児童一人ひとりの実態にあった教育活動を行い、みんなが「学校が楽しい・学校が大好き」と笑顔で登校できるような学校を目指して取り組みたいと思います。

伊与喜小学校

『やさしく かしく』

たくましく』

仲間と共に 学び合い

高め合う子どもに…

校長 橋田 まや

◆はじめに

本校は、三方山や伊与木川といった豊かな自然に恵まれた地域にあり、本年度は、児童数23名、完全複式の3学級編成でスタートしました。その後、夏休みに転出入があり、2学期からは児童数22名となりました。

児童は、明るく素直で、休み時間などは学年を超えて仲よく遊び、行事などでもよく協力して活動できます。学習にもまじめに取り組み、学力の向上も見られますが、学習や活動を主体的に行ったり、創意工夫して取り組んだりすることにやや弱さが見られます。

◆学校教育目標

本年度は、教育目標を「心豊かに 学び合い高め合う児童の育成」と掲げ、「心豊かな学び」として、
①めあてを持って学ぶ



全校道徳の授業風景

◆「心」を育てる

今年度も、人権教育・道徳教育を核に、心の教育を推進し、思いやりのある心豊かな子ども、自然の営みや地域の方々、家族に感謝し、また周囲を思いやることのできる心温かい子どもを育てていくために日々の活動を行っています。年間を通しての朝マラソンや一輪車などで心や体を鍛え、そして学んだことや思ったことを表現できる児童を育てていきます。

◆学力向上への取り組み

【校内研修の充実】

本年度も、「やさしく かしく たくましく」をスローガンに、国語科・算数科を中心とした基礎学力の定着、複式授業での自主的な学び（一人学び）の定着、安心して学習に取り組める学級（学校）づくりや支え合える仲間づくりをめざして、全教職員で取り組みを行っています。

左記のグラフは、今年の4月に実施した標準学力調査の結果です。昨年度の学習がどのくらい定着しているのかを見ることができます。ほとんどの学年が期待正答率を上回っており、バランス良く学力が定着していることがわかります。

平成23年度標準学力調査結果

	2年	3年	4年	5年	6年
国語期待正答率	80.7	75.8	70.7	68.1	69.8
国語校内平均正答率	92.4	86.0	69.8	91.7	85.8
算数期待正答率	81.2	73.3	69.2	70.9	70.9
算数校内平均正答率	96.1	86.2	76.3	92.1	92.1



5・6年生の研究授業風景

しかし、観点別・領域別などの個別の分析を行うと、国語の言語事項や算数の数量関係に弱さが見られます。

こうした課題を、私たち教員の授業力を高めていくことで、少しずつ解消したいと思っています。そのために、校内研修会を年間30回以上実施する予定です。

【研究授業の実施】

全教員が授業を公開し、外部講師を交えての授業研究を積み重ねています。そして、より意欲的・主体的に児童が学習に取り組む授業となるように改善を図っています。

また、本校は複式学級で、少数での学習になりますが、「ペア学習」や「とも学び」

を積極的に取り入れ、伝え合う力・コミュニケーション能力を高めるようにしています。

◆上級生のリーダーシップ

【登校から下校まで】

朝の集団登校に始まって、休み時間やさまざまな全校的な活動において、5・6年生がしっかりと下級生を引っ張ってくれます。おかげで、上級生に追いつこうと、下級生がぐんぐん成長します。

水曜日のお昼休みは、児童会主催の「全校での遊び」があり、1・2年生はとても楽しみにしています。

これからも、全校児童22名、みんなで伸びていきます。



6年生による、本の読み聞かせです。
下級生は聞き入っています。